



やよい図書館



4月から内容をリニューアルしました！館長おすすめの「フレーズ&センテンス」や職員おすすめの「今月の1冊」「Cinema library」など、今年度も魅力あふれる本をたくさんご紹介します。

フレーズ&センテンス

～「まだまだおなかは ペっこペこ」～

上のフレーズ、何の本の中に出てくるものかわかりますか？ヒントは、色彩がとても美しい有名な絵本です。わかる人がたくさんいるのでは…？ そう、エリック・カールの『はらぺこあおむし』です。あおむしが毎日たくさんのおいしいものを食べて、ぐんぐん大きくなっていくおはなしですね。エリック・カールは自分で作った色紙をコラージュして描いていきます。それであんなに美しい絵本ができあがるのですね。読んだことがある人もぜひまた手に取ってみてください。ハッとするような色づかいと楽しいしきけがあなたを待っています。（偕成社）

今月の1冊

『はじまりの日』 ボブ・ディラン／作 ポール・ロジャース／絵 岩崎書店

この本は、ボブ・ディランが息子を想って作った「Forever Young」の日本語訳と爽やかな絵が描かれた絵本になっています。誰かを愛する気持ちや、希望に満ちあふれた日常などを描いています。「Forever Young」一度は耳にしたことがあるかもしれません。原曲と一緒に読んでみるのもよしです。4月がスタートします！ なにか新しい事にチャレンジしてみるのにちょうどいい機会ですね。今回は、やよい図書館のティーンズコーナーにある1冊をご紹介しました。絵の中にはあの有名なバンドグループも登場しますよ。探してみてください。

Cinema library

第1回 魔女の宅急便

4月号から新たに始まる Cinema library！ 毎回、映画化された作品をこちらのコラムで紹介していきます。第1回目は今年3月に実写版が公開された『魔女の宅急便』です。

1989年公開のスタジオジブリによるアニメ映画でその名をご存じの方が多いかもしれません。私もそのうちの一人です。1985年の初版発行から2009年のシリーズ完結まで24年の歳月をかけて、主人公キキの仕事や恋や魔女としての生き方を描いています。書籍発行からアニメ化、舞台化、実写化など次々と姿をかえ、現在は魔女の宅急便番外編が「web福音館」で公開されています。作品中で登場したキャラクターとまた会えるチャンス！ 単行本と合わせて、こちらもいかがでしょうか。アニメ映画で出てきたミルクがゆ、にしんとかぼちゃの包み焼き、デッキブラシでの大立ち回り・・・さて、原作ではどうなっているでしょうか？ ぜひこの機会に手にとってみてください！

★『魔女の宅急便』1~6巻 角野栄子／作 福音館書店

★『アニメーションの色職人』柴口育子／著 德間書店

★『ジブリの哲学』鈴木敏夫／著 岩波書店



次回は『ティファニーで朝食を』をご紹介します。お楽しみに！

読書の窓

贈りたい本 ～サンジョルディの日～

4月23日はサン・ジョルディの日です。スペイン・カタルセロナなどでは古くから守護聖人であるサン・ジョルディをたたえ、男性は女性にバラを、女性は男性に本を贈る習わしがありました。現在日本ではこの風習にちなみ、本を贈る日として記念日が制定されています。みなさんも周りの方に本を贈ってみてはいかがでしょうか？

さみしがり屋の子どもへ贈る…

『かあさん、わたしのことすき？』

母親に自分がどのくらい好きかを問い合わせる一冊。母親に意地悪な質問ばかりくりかえす子どもですが、母親が丁寧に答えていく二人の姿はとても可愛らしくあります。原作は北極圏内のため、出てくる動物はアザラシや北極ぐまなど楽しい1冊になっています。

新生活を始める人へ贈る…

『三十一文字で詠むゲーテ』

平野卿子／著 飛鳥新社

人生のことはゲーテ先生に聞きましょう。人生について、社会について、異性について…。200年前の人間の言葉だけれど、現代を生きる私たちにすっと馴染みます。思わず「そうだな」と頷いてしまうものから、心に突き刺さるものまで、あなたに合う一首が見つかるはず。

友達へ贈る…

『Tomorrow Stage1 明日、戦争が始まったら』

ジョン・マーズデン／著 ポプラ社

毎日学校に通い、遊んでと楽しい生活を送っていたはずなのに、ある日キャンプから帰ると、謎の集団に町が占拠されていた。仲間とともに町を救うために謎の集団に立ち向かいます。周りが敵ばかりでも、仲間と一緒にならば立ち向かえると思わせる1冊です。

疲れた人に贈る…

『ぼくの手のなかには』

太田朋／著 大和書房

手書きの温かい絵と優しい言葉が少し疲れてしまった心を癒してくれます。がんばりすぎないで、一回立ち止まってもいいと教えてくれます。「厚く重たい雲もいつかは途切れる」。明日からまたがんばろうという気持ちにさせてくれる1冊です。

母へ贈る…

『生まれてバンザイ』 俵万智／著 童話屋

親の気持ちは親にならないとわからない、と言いますが、きっとこんなふうに私を育み、私を愛してくれたのではないかと思います。もう確かな記憶ではないけれど、優しくて温かなあなたの手は、今でも私を守ってくれています。そのことを思い出させてくれた本。感謝とともに、あなたへ贈ります。

★新連載のおしらせ★

次号のオアシス5月号より、やよい図書館内「絵本講師の本だな」で絵本を紹介している絵本講師、のぐちりえさんの新連載『おうちえほんのススメ』がスタートします！私たちの知らないかった“おうちえほん”“絵本で子育て”的魅力を隔月連載でたっぷりお話しします。お楽しみに♪

